

京都大学若手人材海外派遣事業 スーパージョン万プログラム
研究者派遣元支援プログラム

成果報告書

提出日：平成27年8月19日

1. 採択者			
氏名	石濱 泰	採択年度	平成25年度
部局	薬学研究科	電話	
職名	教授	メール	
2. 渡航者			
氏名	若林 真樹	採択年度	平成25年度
部局	薬学研究科	電話	
職名	助教	メール	
研究課題名	シングルセルプロテオーム解析法の確立		
海外渡航期間	平成26年1月1日～平成26年11月8日		
3. 渡航に関する情報			
渡航先	国名：アメリカ 大学等研究機関名：イリノイ大学 研究室名等：化学科 受入研究者名：Jonathan V. Sweedler		

<p>渡航期間中の出張</p> <p>(渡航期間中に一時帰国や学会参加等の目的で短期の出張があった場合、その目的、行き先、期間を報告して下さい。)</p> <p>※複数回に渡る場合、適宜行を追加して下さい。</p>	<p>出張先：京都大学薬学研究科 目的：実験 期間：2014年3月15日～2014年4月2日</p> <p>出張先：京都大学薬学研究科 目的：実験 期間：2014年6月6日～2014年6月14日</p> <p>出張先：京都大学薬学研究科 目的：実験 期間：2014年8月2日～2014年8月19日</p> <p>出張先：帝京大学 目的：学会参加 期間：2014年8月20日～2014年8月22日</p> <p>出張先：京都国際会館 目的：学会参加 期間：2014年10月13日～2014年10月20日</p>
<p style="text-align: center;">4. ジョン万プログラムによる成果</p> <p>以下の項目について、渡航期間中の成果、または今後見込まれる成果を具体的にお書き下さい。 ジョン万プログラム研究者派遣プログラムを通じて渡航された場合は、渡航者の提出する成果報告書の写しを添付することとし、この項目の記入は不要です。 それ以外の海外派遣事業等を通じて渡航した研究者にかかる派遣元支援の場合は、以下の項目を記入して下さい。</p>	
<p>国際共著論文の執筆</p> <p>(論文の題名、雑誌名、共著者名、刊行予定等)</p>	<p>・ Single cell proteome profiling of <i>Aplysia californica</i> neurons, Masaki Wakabayashi, Jordan T Aerts, Stanislav S Rubakhin, Yasushi Ishihama, Jonathan V Sweedler、投稿準備中</p>
<p>更なる外部資金獲得に繋がる国際共同研究の立上げ／実施</p> <p>(国際共同研究の内容、実施計画、応募予定の外部研究資金等)</p>	<p>該当なし</p>

<p>国際研究ネットワーク の新規構築／深化</p> <p>(参加した学会や その他の学術・交流 組織、そこから構築／ 深化した研究ネットワ ークの内容等)</p>	<p>本事業で推進したイリノイ大学との共同研究において、強固な共同研究関係を確立し、継続的な共同研究計画を進めている。この計画においては派遣研究者が中心的役割を担うこととなっており、本事業の派遣研究者が当該研究領域の第一線に立つことが期待される。今後も共同研究を継続し、一層良好な関係性を構築することで、若手研究者間のネットワークの構築や、英語によるコミュニケーションスキルの向上、これに伴う新規国際共同研究への発展などにも資すると考えられる。</p>
<p>在外研究経験 による研鑽</p> <p>(渡航先機関で得た 研究の展開方法、研究 室の運営方法、教育方 針・人材育成方法等)</p>	<p>本プログラムにおける経験は、派遣研究者にとって高い国際性や自立して研究を進める能力を養う重要な機会となったようであり、今後アカデミックポジションを獲得、維持していくための研究姿勢に大いに役立つものと期待できる。派遣研究者が我が国の教育研究機関において世界レベルで優れた創薬研究を展開し、さらに後進の人材育成を行うにあたって、国際的かつ独創的な研究の重要性を知る貴重な人材として活躍できると考えられる。また、革新的創薬技術の開発を担う研究者として将来世界で活躍するための技術的、精神的基盤が派遣研究者に形成されつつあると考えられる。</p>
<p>フィールド研究 の進展</p> <p>(渡航先国で実施した 実地調査や文献調査 等の内容)</p>	<p>該当なし</p>